

## 特集 49 生（一期生）にきく

ついに、この3月25日、わが総合科学部は第一回の卒業生を送り出すことになりました。一期生なるが故のハンディを背負って、黙々と4年間を過ごしてこられた49年度入学生はいい意味でも悪い意味でも、これからの総合科学部の試金石となられる方たちです。飛翔編集部ではこの49年度生の生の声を聞く企画を作り、三本の柱にしてみました。

まず第一に「総合科学部研究序説」と銘うったアンケート形式の何でも言いたい放題コーナー。二番目は「卒論の書き方教えます」と題した卒論コーナー。三番目は「就職進学あれこれ—大学は出たけれど」です。どの柱も我々が属している総合科学部を知る上で、非常に有益と思われるものばかりです。

では、始まり、始まり——

### Part I 総合科学部研究序説

暖い冬だなあと知っているうちに1977年が暮れ、“あけましておめでとう”もなにやら時期はずれに感じられるようになった今頃。広島にも珍しく大雪が降り、大喜びした人も多かったことでしょう。

しかし、そんな浮世のでき事も尻目にひたすら下宿にあるいは研究室にこもって悪戦苦闘を続けている人たちがいます。四年前、三月遅れの入学試験を受けた時から常に第一期生というハンディを負いつつ学生生活を送ってきた四年生の皆さんです。

やっと卒業にたどりついたという人、もう四年たったのかという人、あるいはあと何年かなあという人。様々の感慨を胸に、その日その日をすごしている四年生に、後輩へのアドバイスも含めて四年間のうっぶんばらしをしてもらおうと、このコーナーを設けました。ほんとに忙しい時間を裂いてアンケートに答えて下さった四年生の皆さん、ありがとうございました。

#### 1 私の総科 ——長・短ひとこと——

(イ)よかった点

- 新設ということで柔軟性・緊張感あり。
- 新設の学部のために学部自体に、そして、学問領域に常に問題意識をもち、学問を自由にできたこと。（単位をとることではなくて、自分の関心をもつこと、卒論もそのような結果）
- 学生も教官もはじめての学部だったので生き生きした若々しさがあつた。
- 既存学部より少しは大きな視野で学問の姿勢を保てたということ。ともあれ一期生として学部の歴史を拓こうという気概・ガッツが絶えずあつること。
- 上からのしめつけがなく何でも自由にやれる。
- 専門にとらわれない自由な学習が出来た。
- 自由にのびのびと勉強ができた。
- わりとのんびり、ゆったりやれた。
- のんびり暮らせたこと。
- 学部内のつながりが密接だつたこと。
- 先輩がいないので、4年の結束が強かつた。
- 教官とのつながり大。
- （どの大学、どの学部に行ってもそうだろうか）有能な先生と人の良い友と知り会つたこと。
- よい師（前田渡先生）にめぐり会えた。
- 友人・教官に恵まれていると思う。
- 学生数の割に先生が多く個人的な接触をもつ機会があつた。
- いろいろな人と知りあいになれたこと。
- 多くの友を得た。
- 個性の強い仲間に出会えた。
- 友人にだまされた。
- 彼を見つけることができた。
- 既成の学部より広い範囲から自分のやりたい事を選べる。
- 人文・社会・自然の各分野の授業を巾広く、と

ることができた。

- 巾広い未知の学問にふれられてよかった。
- カリキュラムの枠が比較的自由に、せまい視野にとらわれない。
- いろいろな授業科目を自分の好みでとれたので、授業への興味を失わずに済んだ。自分の思いどおりの授業プランが組めた。
- 就職先を見つけることができた。
- 悩みの中で何かを見つけることができた。
- 何にもならなかった点。
- ないのではないかな？

#### (回)わるかった点

- 未知の分野を扱うはずの学問はいったいどこへ。
- 総合科目など、うちの学部ホシとなるべきものが、カリキュラムの上であまり大きくスポットライトを浴びていない。コース別の区切りが目立ち、ともすれば文理学部と余り変わらなくなるという危機。学士号が教養学士というのもおかしい。全生徒に光があたっていない。
- 就職が普通の既存の学部より難しく不利。それから大学院についても最初のオオプロシキは、どこへやら吹きとびマスターのみになりそうなもの、その先の就職には不利。
- 「総合科学部」自体が的確に認識されていず、路頭に迷った感あり。
- 一般に総合科学部という学部が学部内の教官(そして学生)が考えるほど理解されていなく、それに対する評価もきびしいこと。であるから総合科学部卒業という学歴はそのように判断されてしまう。
- 未だ学部自体が確立されていないので常に不安であった。
- 前例がないため、卒論、就職等に関して不安が大。
- 先輩がいなかったこと。
- 先輩がいなせいか詳細にわたっての指導が不十分だった。
- もう少し、自分の専門の方面の授業を開講してほしかった。
- 専門科目を深くやれなかった。
- 専門がなかった。
- 中途半端な知識。
- これと言って、他にアピールするものが得られなかった。
- カリキュラム不安定のため、系統的学習が妨げられた。
- 自分個人の問題であるが、専門分野の深みが無い。
- 巾広く学ぶことができるが専門分野の科目の充実がない(しかたのないことであるが)。
- 集中講義が多すぎた。
- のんびりしすぎた(そういう雰囲気だったみたい)。
- 何にもならなかった点。
- 得るものが少い。
- 希望がちっとも実現しなかったこと。
- ファイトのある人間に会えなかったこと。
- 帰省にお金がかかりすぎた。



## 2 すすめたい講義・開講してほしかった講義

(イ) 後輩にすすめたい講義

専門科目

コース	講座	教官名	講義題目
地域文化研究	日本	中川	日本文学研究
		深萱	日本文学研究演習
	アジア	江嶋	アジア宗教社会学
	ヨーロッパ	福嶋	ドイツ文学研究
	英米	志邨	アメリカ史演習, アメリカ現代史
社会文化研究	比較	上田	現代思想
	共通	芝田	社会科学方法論
	I	今中	社会思想史
		芝田	現代社会理論 I, II, ゼミ
II	山田	現代国際政治論	
情報行動科学	情報行動	前田	情報理論
	基礎研究	天野	発生情報学
	人間行動研究	日高	動物行動学
		黒川	集団力学
		小野	行動理論
小林	行動生理学実験		
外国語特別研究	スミス	英会話演習	

一般・哲学(門)

アメリカ史概説(志邨)

遺伝学(瀬川), プログラミング

その他・教育実習

全ての講義(ただし勉強は自分でやるものと銘記せよ)

(ロ) 在学中に開講してほしかった講義

アメリカの政治・経済に関するものをもっと。

アメリカ政治論演習

イギリス経済・政治論

東南アジアに関する種々の講義。

東南アジア地域研究方法論

言語人類学, 仏教学

現代文化論, 現代文明論, 地域社会文化論, 東西比較論, 比較思想, 歴史哲学論, 総合科学論,

関教授の国際関係論, 国際開発論, 植民地論, 近代

経済学, 技術論, 科学哲学論

技術的なプランニングに関するもの(環境)

特に指定しないが, 各先生の研究中的内容を見せて

くれるもの。(etc.)

## 3 私は言いたい

—— 個人的総科考察 ——

(イ) もっとも興味をもって4年間やってきたこと

(ロ) 総科のキャッチフレーズをひとつ

(ハ) いいたいことなんでも

(アジア) 池田美津子

地域文化コース

(日本) 中井良幸

(イ) やりたいことをやる

(ロ) 常識への挑戦

(ハ) 総合科学部を全体からまとめようという努力も必要だけど, 下からの各群からの統一の積み重ねも大切じゃあないんでしょうか。

(日本) A

(イ) 自分の目的を見つけること

(ロ) 目前の利益にばかりとらわれないで, 自分の本当にやりたいことを, 大きな気持ちで見つめていきたい。

(イ) 旅行

(ロ) 総科って何?

(ハ) 学生の本分を何ら果たしておらず, 今はその代償の大きさの中に埋もれている。

(アジア) 井上雄之

(イ) 専攻に関する研究

(ロ) 何を学ぶのかよくわからない学科, そこが魅力!  
(ハ) モラトリアムの末期を迎えて, 卒論に対し焦燥感を募らせつつも, 寂漠たる感傷は拭い得ない。就職後はエコノミックアニマルに徹して精一杯資本主義の精神が許す悪事? に融けこもう。そうでも思わないとやってられないよ。

(アジア) 新宅弘昭

ｲ) 東南アジアの人々の生活を追求すること。

ｲ) 不安と創造

ｲ) 地域研究内でアジア研究, 日本研究, 英米などそれぞれが固まりすぎ, 講座制をなくした総科の特色がうしなわれている。

(アジア) B

ｲ) 言語と文化, 特にアジア関係

ｲ) 忙しい。

(英米) 幾留 修

ｲ) 現代イギリス working class の文化について

ｲ) 何にもないところから何かをつくりだす学部

ｲ) 早く卒業して4年間を忘れてしまいたい, 今, 何をしたいかを問われても, 答えられない。

(英米) 田中真志

ｲ) 麻雀

ｲ) 同学部の女を好きになるな

ｲ) 四年間あそびすぎた。今とても苦しんでいる。もう少し勉強すべきだった。

(英米) 玉木俊幸

ｲ) 幅広い趣味をもつように心がけてきた点

ｲ) 入試の穴場 総合科学部

ｲ) 今の2, 3年の総合科学部生はバラバラな状態であり, ソフトボール大会を例にとってみても, 集りが非常に悪い。やはり, そうなってくると他の学部の二の舞となるだろう。連帯意識をもってほしい。

(英米) 民谷昌弘

ｲ) アメリカ研究のまとめ

ｲ) 女性よ去れ 男性よ来れ 総合科学部

ｲ) 新設学部ということでカリキュラムなどにおいて多くの不備があつたが, 後輩はもっと学部内, 少なくともコース内でのつながりを持って学部を学生の手で形成していただきたい。

(英米) 津崎泰代

ｲ) コース内の連帯感を強くしてほしい。他学部では研究室ごとにさかんに活動しているが, 総科にはそういうものがない。現に研究室に出入りしてい

るのは, 4年と3年の一部だけ。もっと総科として研究室として一つになる努力を。

(英米) 早川弘信

ｲ) 何でも学べる総科

(英米) 藤谷昌平

ｲ) 課外活動

ｲ) 外面だけでとらえず来てみんしゃい。

ｲ) 英米研究が女性上位と化した。男の子どうか志邨先生のためにも来てやってくれ。

(比較) 天野雅郎

ｲ) 「生活」と「思考」とについて

ｲ) こうした「飛翔」の傾向は はやめに改めること。自分のことは自分で考えよ。

(比較) 清水冬絵

ｲ) 私は一体誰でしょう?

ｲ) たいがいの人間の生活を見ていると

明らかにわかる

人間は, 空いているドアーにかけ込んで

頭をおち割ることもある E, ケストナー

(比較) 橋詰義次

ｲ) 仲間をどうまとめるか

ｲ) 人間性を持ったより広い視野

ｲ) 一期は, はっきりいって新学部の犠牲になった。

本当の意味での総科の教育を受けるのは二期生以後だろう。しっかりやってくれと言うだけである。

社会文化コース

Ⅰ群 尾崎弘明

ｲ) 特になし。

ｲ) ゼミでみっちり, 卒論でじっくり, そして就職は……?

ｲ) 世の中には, ついていっているというか, なんというか, 物事がいい方向にころがってくる奴がいるが, 総科の一期生は一度つまづいた奴ばかり。それだけ面白い四年間だったが, 女性にもてなかったのが一番つらかった。

Ⅰ群 等 雄一郎

ｲ) 文化人類学とその関連分野についての基礎知識を得ること。